

自閉スペクトラム症の特性に特化した 最適な余暇活動支援のあり方に関するインタビュー調査

特定非営利活動法人 ネスト・ジャパン

〒108-0074 東京都港区高輪 1-26-25

助成事業の概要

本調査は、自閉スペクトラム症（ASD）のある人たちの余暇活動の実態を明らかにし、特性に特化した最適な余暇活動およびその支援方法を検討することを目的としたものである。一般的なレクリエーションとしての余暇は、興味や感覚の異なる ASD の人たちが排除されてしまいやすく、また、余暇活動支援は学習支援や就労支援と比較して後回しにされがちな現状に着目した。なお、「余暇活動」は「集団で実施している活動」とした。

調査は 2024 年度に実施した。調査 1 および調査 2 で構成される。

調査 1：余暇活動に関する実態調査アンケート (2024 年 6～8 月)

障害福祉事業所およびその利用者を対象に Web アンケートを行った。

調査 2：余暇活動に関するインタビュー調査 (2024 年 8～10 月)

調査 1 に協力した事業所の支援者および利用者を対象に、余暇活動の位置づけや実際の活動内容について詳細を聴取した。

調査 1 および調査 2 により、ASD の人たちが安心して参加できる余暇活動の在り方や、活動継続を支える支援方法を検討するための基礎的なデータが得られた。

事業の成果

調査 1 アンケートの結果

事業所 179 か所、利用者 65 名から回答を得た。

余暇活動支援は 7 割の事業所で行われ、支援者もその必要性を認識していることが明らかになった。主に成人を対象とする事業所では、社会体験活動やレクリエーション活動が多く、主に児童を対象とする事業所では、興味に則した活動を取り入れるよう工夫されていた。

当事者では、趣味活動など個別性の高い活動への参加が多いことが明らかになった。ASD の当事者は全体的に余暇活動への満足度が高く、興味に合った活動に主体的に取り組むことが満足度の向上に繋がることが示唆された。余暇活動支援においては、当事者の興味や主体性を考慮することが重要だと言える。

調査 2 インタビューの結果

事業所の支援者 9 名、利用者 6 名に対面またはオンラインにて半構造化面接を実施した。

支援者の行う余暇活動支援の目的は、「社会視点の支援」と「当事者視点の支援」が重なり合うものだった。アセスメントを行い、当事者または支援者間で目的を共有したうえで活動が実践されており、参加者の反応に応じて支援は柔軟に調整されていた。一方で、取り組む上での物理的な制約や支援者のスキル不足といった課題があり、課題解消に向けた取り組みが求められる。

当事者が集団の余暇活動に求めるものは、「興味に則した活動」と「交流機会」の 2 つがあり、これらを支える要素として「安心感」が重要であることが示唆された。また、余暇活動の参加を妨げとなる要因として、「他者との関係性」や「生活と余暇のバランス」が挙げられた。支援者が安

心感のある活動運営を行うことは、当事者のニーズを満たし、活動の継続や満足度向上に寄与する可能性が高いと考えられた。

なお、本調査では、調査項目の検討を行う際に当法人の利用者にも確認した。また、調査関連の業務を一部委託した。これらの研究参加が調査において有益であったと同時に、新たな就労の機会や社会貢献の実感が得られる機会になったのではないかと考える。

■ 成果の広報・公表

（１）報告書の作成と公表

調査１および調査２の結果について、報告書「自閉スペクトラム症の特性に特化した最適な余暇活動支援のあり方に関する調査研究」にまとめた。余暇活動支援の研究を行う研究者から、余暇活動支援へのコメントをいただくことができた。通常版（全 27 ページ）の報告書のほか、普及を目的として、通常版の概要をまとめた簡易版（全 8 ページ）を作成した。ASD の人たちの余暇活動支援に取り組む事業所や支援者に活用いただくため、下記の方法で公表、周知した。

- ・調査１に協力した事業所のうち、送付を希望された事業所 88 か所、インタビューに協力した当事者のうち、送付を希望された 2 名に報告書を送付した。
- ・当法人ホームページ
(<https://www.nest-japan.org/>) にも掲載して公表し、SNS で周知した。
- ・当法人の会報に掲載し、会員に周知した。

（２）学会発表

2025 年 3 月 4 日～ 6 日に行われた「第 36 回発達心理学会大会」において、「発達障害のある子ども・若者の特別な興味に基づく余暇活動支

援」をテーマとするラウンドテーブルが開催された。本調査の内容を発表するとともに、意見交換を行った。

■ 今後の展開

（１）今後、本調査結果は論文にして、発表する予定である。

（２）本調査の結果から、当事者が「安心感」をもって活動に継続的に参加するために、「余暇活動支援で支援者に求めるもの」が生じていることが示唆され、支援者に求められる役割は決して少なくないと言える。一方で、余暇活動支援の「必要性を感じているが実施できていない」と回答した事業所は、主な理由に「人員」「時間」の不足などの物理的な要因を挙げていた。ASD の人たちの特性に特化した最適な余暇活動を普及するには、直面している課題の解消の一助になる事業が必要と考えられた。そこで、余暇活動支援の課題を解決し、本調査をベースとした余暇活動支援をさらに普及していくために、当法人が事業所に出向くことで余暇活動支援の提供機会を拡大することを目的として、「出張余暇」事業を次年度より取り組んでいく。